スポーツ
ひろしま

第　137　号

令和2年（2020年）1月31日

発行　(公財)広島県体育協会

〒730-0011 広島市中区基町4番1号
県立総合体育館内
TEL(082)221－4600
FAX(082)222－8040
E-mail:taikyo@orange.ocn.ne.jp

令和元年度
叙勲・褒章・文部科学大臣表彰受章　祝賀式
公益財団法人広島県体育協会体育賞表彰式

左から溝手顯正（旭日大綬章）、林正夫（旭日重光章）、大成浄志（瑞宝中綬章）、上野弘文（旭日小綬章）、坂本一彦（旭日小綬章）、榎田好一（瑞宝小綬章）、水野功明（旭日双光章）、山本航三（文部科学大臣表彰）の各受章者の皆さま

祝賀会・表彰式で挨拶する神出会長

受賞者を代表して謝辞を述べる陸上競技　木村文子選手

令和元年12月7日（土）、令和元年度に叙勲・褒章・文部科学大臣表彰を受章された公益財団法人広島県体育協会ならびに加盟団体関係者の祝賀式、併せて公益財団法人広島県体育協会体育賞表彰式を広島市内のホテルで開催した。祝賀式・表彰式には、受賞者及び関係者300名が出席した。公益財団法人広島県体育協会の神出亨会長は、「永年にわたるご功績が評価され叙勲・褒章・文部科学大臣表彰を受章された皆さまのご功績に心から敬意を表しお祝い申し上げる。また、本協会体育賞を受賞された加盟団体役員、国際大会や全国大会で優秀な成績をおさめたチーム・監督・選手の皆さん、本県スポーツの中心となってご活躍いただいたことにお礼を申し上げる。来年のオリンピックでの広島県選手の活躍、そして第75回国体においても「チームひろしま」として飛躍の年にしたい。」とあいさつした。

（受賞者名は2～3頁に掲載）

令和元年度叙勲・褒章・文部科学大臣表彰受章者

叙　勲　・　褒　章

旭日大綬章

溝　手　顯　正

広島県自転車競技連盟会長

瑞宝中綬章（スポーツ振興功労）（教育研究功労）

大　成　浄　志

公益財団法人広島県体育協会スポーツ医・科学委員会副委員長
広島県ボクシング連盟副会長
広島大学名誉教授

旭日小綬章（地方自治功労）

坂　本　一　彦

東広島市体育協会会長

瑞宝小綬章（地方教育行政功労）

榎　田　好　一

広島県相撲連盟常任理事

黄綬褒章（業務精励・金融業）

武　田　龍　雄

公益財団法人広島県体育協会特別会員
広島信用金庫理事長

旭日重光章（地方自治功労）

林　　正　夫

公益財団法人広島県体育協会顧問
一般財団法人広島県水泳連盟会長
一般財団法人広島県剣道連盟会長

旭日小綬章（自動車販売事業振興功労）

上　野　弘　文

公益財団法人広島県体育協会評議員
公益財団法人広島県体育協会特別会員
広島日野自動車株式会社代表取締役会長
広島県軟式野球連盟副会長

旭日双光章（スポーツ振興功労）

水　野　功　明

公益財団法人広島県体育協会常務理事
一般財団法人広島県水泳連盟副会長兼専務理事

文部科学大臣表彰

（生涯スポーツ功労）

山　本　航　三　公益財団法人広島県体育協会常務理事
一般財団法人中国ゴルフ連盟専務理事

坂　手　照　憲　公益財団法人広島県体育協会
スポーツ医・科学委員会副委員長

平成30年度公益財団法人広島県体育賞受賞者

功労者の部

二反田亘、平野克彦（陸上）、小笠原啓殖（水泳）、湯浅光範、岡平哲司（柔道）、平井俊雄（弓道）、衣川知孝、平田智洋（レスリング）、木村修二（ラグビーフットボール）、宮田幸正、河内山明宏（軟式野球）、大庭浩資、棚田寛二（バスケットボール）、村上正之、佐久間元治（バレーボール）、柳義信（テニス）、木下敏朗、矢野恭伸（ソフトテニス）、新谷士朗、安田美恵（体操）、田村由貴、内海竜宏（ボート）、神田幸盛（スキー）、松野一弘（空手道）、石田誠治（エスキーテニス）、冨中宗義、平田幸壮、沖孝夫、吉田富雄（広島市）、柳川俊雄、槙岡達真（呉市）、砂田恭明、山竹芳樹（尾道市）、山本義倫（福山市）、菅原一男（三次市）、大原文雄（東広島市）、古川修、保田貴司（府中町）、小田紀代美、宗像啓之（海田町）、山田和彦（熊野町）、松下秀明（高体連）、玉井二郎、藤本法生（小体連）、小林康史、石岡正美（スポーツ少年団）

国際大会優秀の部

陸上　木村文子（㈱エディオン）
上田万葵（広島市立舟入高等学校）
松重安真（広島市立広島中等教育学校）

柔道　八巻衣音（広陵高等学校）
佐藤優磨（広陵高等学校）

バスケットボール　三谷桂司朗（広島県立広島皆実高等学校）

バレーボール　金子聖輝（日本たばこ産業㈱中国支社男子バレーボール部）
小野寺太志（日本たばこ産業㈱中国支社男子バレーボール部）

ソフトテニス　広岡宙（NTTビジネスアソシエ西日本中国支店）
半谷美咲（アザレア千代田）
高橋乃綾（一般財団法人どんぐり財団）
丸中大明（NTTフィールドテクノ中国支店）
長江光一（NTTビジネスアソシエ西日本中国支店）

ウエイトリフティング　堀井正雄（㈱ヒロテック）

スケート　谷本光（慶應義塾大学（開催当時））

アーチェリー　松川智哉（広島県立佐伯高等学校）
堀口理沙（㈱エディオン）

空手道　田上乙風（如水館高等学校）

功労者
スキー　神田幸盛さん

国際大会
陸上　木村文子選手

全国大会団体優勝の部

アーティスティックスイミング　アーティスティックスイミング広島
飛込　福山平成大学　水泳部
競泳　280歳の部男子リレー広島県チーム（フリー、メドレー）
200歳の部女子リレー広島県チーム（フリー）
280歳の部混合リレー広島県チーム（フリー、メドレー）
剣道　小学生の部広島県チーム
ホッケー　コカ・コーラレッドスパークス
ソフトボール　広島県立御調高等学校
バレーボール　JFE西日本バレーボール部
上黒瀬JVC
テニス　山陽女学園中等部
バドミントン　広島エコークラブ
卓球　中国電力
アーチェリー　㈱エディオン　アーチェリー部
ボウリング　男子シニア広島Bチーム

全国大会個人優勝の部

陸上　アモス・クルガト（㈱中電工）
木村文子（㈱エディオン）
神田菜摘（福岡大学）
テレシア・ムッソーニ（広島県立世羅高等学校）
山本悠理（三原市立大和中学校）
勝治玲海（広島県立安芸高等学校）
湯淺佳那子（日本体育大学）
安立雄斗（福岡大学）
競泳　井田憲吾（自衛隊体育学校）
前峠浩義（Tekisui）
石田人志（リョービ㈱）
大木あい（スポーツクラブルネサンス広島東千田）
前峠和江（Tekisui）
西本智良子
下家佐江子
尾川文子
尾形眞知子
アーティスティックスイミング　比嘉もえ（広島市立天満小学校）
新直乃子（広島市立南観音小学校）
新佳乃子（広島市立南観音小学校）
柔道　佐藤優磨（広陵高等学校）
八巻衣音（広陵高等学校）
弓道　岡本肇（㈱ウッドワン）
ボクシング　梶原嵐（崇徳高等学校）
テニス　磯村志（広島市立広島みらい創生高等学校）
川畑俊英（チームTK）
藤田瑛（アキラITC）
ソフトテニス　広岡宙（NTTビジネスアソシエ西日本中国支店）
濱島怜奈（広島修道大学ひろしま協創高等学校）
箱崎愁里（清水ヶ丘高等学校）
バドミントン　下田菜都美（広島ガス㈱）
卓球　横山輝（原田鋼業㈱）
徳島剛（原田鋼業㈱）
土田美佳（中国電力㈱）
宋恵佳（中国電力㈱）
烏田幸（広島商船高等専門学校）
新体操　東本侑也（広陵高等学校）
自転車　吉田智志（呉市役所）
山口忠行
岡本亜耶子（広島国際大学）
ウエイトリフティング　山本亮（戸田工業㈱）
堀井正雄（㈱ヒロテック）
紀井亮（広島県事業継承ネットワーク事務局）
セーリング　豊島有壮（広島なぎさ中学校）
小菅楓（広島県立広島国泰寺高等学校）
橋本歩波（広島市立広島中等教育学校）
カヌー　坪田恵（自衛隊体育学校）
アーチェリー　菊地栄樹（㈱エディオン）
天神聡子（広島県立佐伯高等学校）
河田悠希（日本体育大学）
ボウリング　門田裕美（福山市立山手小学校）
高橋洸正（広島市立温品小学校）
吉田実（㈱海南鉄工所）
ゴルフ　唐下明徒（広島県瀬戸内高等学校）
金谷拓実（東北福祉大学）

新記録の部

競泳　井田憲吾（自衛隊体育学校）

第74回国民体育大会優勝及び入賞の部

前号（136号）に掲載のとおり

令和元年度優秀指導者

佐々木道徳
（陸上競技女子監督　広島県立西条農業高等学校）
大田昭子
（ホッケー競技成年女子監督兼選手
コカ・コーラボトラーズジャパン㈱）
信本巌
（ボクシング競技少年男子監督　崇徳高等学校）
堀晃大
（ソフトテニス競技成年男子監督
NTTビジネスアソシエ西日本中国支店）
戸田敦大
（アーチェリー競技少年男子監督
広島県立広島工業高等学校）

第74回国民体育大会入賞競技団体の部

第2位　広島県ボクシング連盟
広島県ソフトテニス連盟
広島県アーチェリー協会
第4位　広島県ハンドボール協会
広島県卓球協会
第6位　公益財団法人
広島県サッカー協会
第7位　一般社団法人
広島県ホッケー協会
広島県ゴルフ協会
第8位　一般財団法人
広島県バレーボール協会
広島県ボウリング連盟

国体
ボクシング　黒田丈二朗選手

全国大会個人
陸上　勝治玲海選手

全国大会団体
アーティスティックスイミング広島　小埜心咲選手

入賞競技団体
広島県ボクシング連盟　砂原克規会長

優秀指導者
ボクシング　信本巌監督

第74回 国民体育大会報告会

「いきいき茨城ゆめ国体2019」の報告会が11月20日（水）にANAクラウンプラザホテル広島で行われ、各競技の監督・コーチ、競技団体役員、本部役員等の関係者120名が出席した。

あいさつ

（公財）広島県体育協会会長　第74回国民体育大会広島県選手団団長　**神出　亨**

第74回国民体育大会は、全41競技、総勢608名の選手団を編成することができた。各競技団体の方々へあらためてご協力にお礼を申し上げる。しかし、総合得点1044.5点、総合順位20位で足踏みが続いており、本県では8位入賞が目標と言っているが、成績とのギャップがある。

広島のスポーツは野球、サッカー、バスケットボールと頑張っている。みなさんにもぜひ元気を出して頑張ってほしい。この後、厳しい話もあると思うが、色々意見交換していただき、今後に生かしてほしい。

国民体育大会総括

（公財）広島県体育協会専務理事　第74回国民体育大会広島県選手団総監督　**久保田　文也**

今回国体が開催された茨城は大変な災害を受け、国体後の障害者スポーツ大会が開催できなかった。茨城県にお見舞いと一日も早い復興をお祈り申し上げる。

本県の成績は、個々の競技団体には精一杯頑張っていただいた結果であるが、天皇杯第20位と大変残念な結果となった。

冬季大会はよく頑張ってもらっている。特にスキーは長年の育成がやっと実った結果が出ており、選手の少ない中、施設・設備があまりよくない中ここまで引き上げてもらっている。

さて本大会、入賞数は60から62に増えている、これは素晴らしいことだと思う。ただブロック大会全体でみると非常に残念な結果である。ブロック突破率が広島42.9%で岡山との差が15ポイント以上に広がっている。これが埋まらないと、本大会で得点できない。

会期前実施競技では、アーティスティックスイミングが東京・大阪といった大都市に次いで継続して点を取っている県として評価されている。指導者・選手がしっかりと練習や心構えができている競技である。本大会で1位を勝ち取った競技は、ホッケー（成年女子）が7年連続、ソフトテニス（成年男子）、陸上の湯淺選手、テレシア選手。そしてボクシングの梶原選手、黒田選手、アーチェリー（少年男子）は2年連続。卓球・バレーボール・ソフトテニス・サッカー・陸上・ボクシング・カヌーでの準優勝、これらに敬意と称賛を送りたい。

残念ながら点を取れなかった競技団体には奮起を期待したい。今年順位を二つ下げて20位、この大変悔しい結果を踏まえて今後に向かわないといけない。

また、広島のドクター・トレーナーには本当によく支援してもらっており、心からお礼を申し上げる。今後ますます「チーム広島」で選手を支えてもらいたい。

0点競技が18競技と約半数もあった。強化・育成費は県費で配付している。各競技の強化・普及に取り組んでもらうときに、国体に注目して強化をしてほしい。

これからはより成果主義で県費を有効に使わないといけない。ヒアリングを通じて本当に得点を取るというところに配付していく。県で教育委員会が所掌していた時代は県立学校を中心として強化してきたが、これからは私学にも配分をしていくことを考えている。これは大きな転換である。ヒアリングの中で今後各競技団体がどう活用するかを出してほしい。国体を意識した費用対効果を考えて一緒に取り組んでいきたい。

国民体育大会の成績について

（公財）広島県体育協会強化委員長　**河野　裕二**

今回の国民体育大会について、資料を基に話・分析をさせてもらいたい。

まず、ブロック大会の結果では、岡山が大きく広島を上回って突破しており本国体でも活躍した。ここが一番大きな課題。ブロックを戦い抜けていない10～15団体には、冬から取り組んでぜひ勝ち抜いてもらいたい。

総合成績は、平成8年広島国体の後、下降傾向にある。10年間の競技別の結果、得点を重ねられなかった団体は、何が原因かしっかり詰めていかないと総合得点が上昇に向いていかない。

岡山との対比を見ると、かなりのところで岡山に点を取られている。大きく差をつけられているのが何種目もある。企業スポーツにおいてはまだまだ点を取ってもらっているし、他県から広島に来て活躍している人が沢山おり、広島のスポーツを押し上げてくれている。私たちが考えなければならないのは広島県の少年にあるのではないか。20年くらい前から中学校は中国地方のトップではなかった。総じてみると小中高のスポーツは広島が強かったという思いを持ったことはない。原因の一つは練習環境がよくならず、厳しくなっていること。広島に限ったことではないが現場は厳しく感じながら過ごしている。しかし、ここを何とかしていかないといけない。5年10年頑張ってもブロックで勝てていない競技は、一緒に考えさせてほしい。成年はどこからでも来てもらえる可能性はあるが、それだけでは限りがある。少年をもっともっと活躍できるようにしてやらないと、高校・大学と上の段階に上がっていけない。全国大会に出た経験がある・ないは大きく違う。勝ち進むのは手段だけど、一人一人色々な経験をさせて大きく育てる必要がある。もっと大きな経験をさせてやりたい。私も何ができるのか自問自答をしている。

私が強化委員長になってこの4年間反省ばかりだが、広島県スポーツ推進課の主査と一緒にしっかり考え、皆さんと共に努力をし、ブロックを突破して、何とか鹿児島国体では今年を上回ってこの会を迎えたい。

競技団体、指導者・監督からの報告

ホッケー競技 （7連覇までの道のりとこれからの取り組み）

コカ・コーラレッドスパークス　ホッケー部　部長兼チームディレクター　**矢野　茂樹**

昨年に引き続き報告をさせていただく。今年は2013年の東京から数えて7枚目の1位の賞状を頂くことができた。7回のうち、実は単独優勝は3回しかない。国体の規定で決勝戦が同点の場合両者優勝となるが、今年は何とか岩手国体以来の単独優勝ができた。同点優勝と単独優勝では4点違うため何とか単独優勝してほしいと言われていたので、ほっとしている。どこがよかったかというと、ホッケーは企業チームが出場する県が僅差で切磋琢磨しているので、いつも決勝で戦う県がある。そこで勝つためには時間確保がキーとなる。選手たちは普段普通の社業をしているので、なぜ時間が取れるのかというと、かわいがってもらえるよう、快く送り出してもらえるよう仕事をしろと、指導している。その結果遠征等でまとまって仕事を抜ける際に柔軟に対応していただけている、それが他のチームとの少しの差となっていると思う。また、今はオーストラリア人の監督で、彼の信念は100%のパフォーマンスが発揮できない限りは違うメニューをさせることとしており、そのために選手としっかりコミュニケーションをとって、できない選手は治療やリハビリをさせるようにしている。あとオフを作る、休ませるということで、それが結果として一人一人のパフォーマンスにつながっている。以前の監督は80%まで出来ればあと20%は気合いでやれと言っていたが、そこが違う。

あとキーワードは「チーム一丸」である。チームの所属は22名いるが、国体は14名しか出場できない。その中に入るのに切磋琢磨・競争をし、底上げにつながっている。練習等で「そんなんじゃ国体に出場できないよ。」と声をかけたりしている。8人は国体に出られないが、8人は徹底的にサポート・応援をさせた。それが14名の責任につながる。国体で優勝して一番喜んでいたのは選手ではなく、この8人だったと思う。

現在はオリンピック日本代表合宿25名のうち、チームから10名が呼ばれていて、オリンピックで結果を出して喜びを広島へ届けたいのと、選ばれなかった選手のモチベーションをどう保っていくかを考えている。また既に国体8連覇も期待されていると思うので、ぜひ期待してほしい。

陸上競技 （これまでの取り組みと今回の成果）

（一財）広島陸上競技協会　強化委員長　**松谷　清志**

陸上競技は、毎年全ての種目が行われるのではない。2年ごとに（開催種目が）入れ替わる中で、29名の枠に、得点できそうな選手を入れていくが、記録の良い選手か、調子のよい選手か、強化委員で話をして決めていく。他県では国体に帯同するスタッフが20名の県もあるが、広島は7名。来年からは男女混合4×400mリレーが東京オリンピックの種目になり、さらに複雑化していくが、今回はそんな中得点をしてくれた。突然選考して試合に連れて行って、という競技なので冬季しかベースアップをする期間がない。冬季に何をするか目的をもって合宿を組んでいく、トップコーチを呼んで合宿中もだが学校に戻って何をしていくかをしっかり教える。夏は現地合宿で、国体に出られそうな選手を連れて行って移動導線や待機場所の確認をする。成年は4月のプレシーズンに広島に帰って、国体に出てくれるか各コーチとコミュニケーションをとってもらう。トップ選手の山縣、高山、木村、福部、湯淺などはオリンピックイヤーなのでどうなるかわからない。特殊な技術がいる種目は月1回練習会を行っている。

今回は11名入賞、特にフィールド種目は9位・10位など惜しいところで決勝に残れないのが続いて嫌な流れになりそうだったが、その後入賞が続きいい流れを持ってきてくれた。本大会では快適に競技できるようにコーチに配慮させる。ベストが出せるよう、準備から教えていく。中学生などはウォーミングアップから教える。選手はほとんど待機場所で過ごすので、トレーナーをつけ、ゼリーやおにぎりを準備し、栄養補給もできるようにしておく、前までは弁当だった。送迎もかなり細かくし、早めに宿に帰したり時間に合わせて競技場に来させるなどして選手にストレスを感じさせないようにした。選手にこういう環境でまたやりたいと思ってもらうと、少年は特にまた出たいという思いで頑張ってくれるのではないか。

課題については、ほかの競技もそうかもしれないが前日入りはコンディション作りが難しい。また競技が終わった選手を帰すと紹介や表彰で声援が少なくてさみしい。また、成年選手の多くが学生だが、多くが就職が難しく、高跳びの広島出身の眞野は九電工に就職し、今年も福岡から出て優勝した。近年クラブチームが増え、中学校の先生が少なくなるなど課題は山積みだががんばっていきたい。

カヌー競技 （ジュニア選手と成年選手のつながりと育成）

監督　沖　千佳

成年は今回初めてフルエントリーをすることができた。

成年の小又選手は安芸高田市出身で神奈川県に進学し、自衛隊体育学校に所属している。ふるさと登録を本人はずっとしたかったのだが神奈川県がなかなか許してくれず、今回やっと広島から出られた。15年前から育ててきた選手が国体に出るのは非常にうれしい。有村選手は小又選手と小学校時代全国で1･2位になった関係、それが今回広島で一緒になった。彼は一度カヌーを辞めていたが、海上保安大学校の生活で非常にストレスが溜まって、ストレス解消にカヌーに乗せたいと指導者から相談があって音戸で練習するようになった。現在4年生で、来年は全国どこの配属になるか分からないため、もう一度カヌーをやりきるということで今回国体に広島県登録で出場をした。学生であり、働いてもいるので、週末パドラーと呼んでいるが、頑張っている。所属に自分の居場所を申し出ておかないと外泊できないので、私のところに泊めている。坪田選手は音戸が全盛期のころのキャプテンで武庫川大学に進学し、教員になって私の跡取になってもらいたいと思っていたのが、頑張りすぎて向こうでコーチになってしまった。東京オリンピックで女子にもカナディアンが加わるということで先読みしてカナディアンに転向した。自衛隊体育学校では幹部試験も受けて、競技をやめても生きていけるように頑張っている。オリンピックA候補だったのだが、たまたま今回盲腸でB候補に落ちたため国体に出ることができた。今年9月にあった全日本で優勝して、A候補にも残りそうになり、国体でも2種目で2位･3位という結果を残した。今回広島にやっと恩を返せたが1位じゃないのが悔しかったので、来年また頑張りたいと言ってくれている。奥新選手は大竹小学校の臨採2年目でこれも週末パドラー。陸上出身で大学で転向したので、まだまだ伸びしろがある。高校生はなかなか出場枠が取れなかったが、今回ようやく取れた。深田選手は小学生からカヌーをやっていたが、サッカーに浮気していたのが帰ってきて、大学に行って指導者になりたいと言ってくれている。成年はそろってきたので、高校生の強化を頑張らないといけない。カヌーは人数が少ないので、合宿ではジュニアから成年まで全員が集まるようにしている。アテネオリンピックの代表が、江田島のイベントで講演した際、みんなオリンピックの代表になれると言ってくれて、その言葉を聞いた小学生の意識が変わった。コンビニ弁当が手作り弁当になり、おやつがスナック菓子から白米になった。親も変わった。高校生だけを強化していたのが、ジュニア育成もかねて小学生から成年まで一緒に合宿するようになった。それが結果に結びついたと思う。隣県の話をすると山口は中高一貫校があり、岡山はクラブから高校へ接続する仕組みがあり、鳥取は小中高とつながる環境があり、島根は寮を作って東京など層が厚いところからカヌー留学をさせている。広島も小中高の連携と高校生の環境づくりを頑張っていかないといけない。

バスケットボール競技 （今回の振り返りならびに次年度に向けた取り組み）

（一財）広島県バスケットボール協会　技術委員長　**藤井　貴康**

こういう機会をもらって身の引き締まる思い。今年は全種別でブロック突破できず、国体出場0名、厳しい結果を受け止め検証して協会として何をしていくのか考えないといけない。この結果にお詫びを申しあげる。今年から変わったことが①少年はU16になり高校1年をターゲットにするようになった。②成年は高校2年から登録できるようになった。③4年に1度のフルエントリーの廃止でブロック枠は1から2になった。

現場サイドの課題としては、中高連携しながらやってはいたが、中学3年が秋に引退して高校1年になるまで受験もあり、継続的な活動ができていなかった。今後はクラブチームと県協会で練習会を行い、コンディションを維持して高校へ送り込むようにしていかないといけない。成年は母体がないので、クラブチームとふるさと選手が中心で総合力が不足している。母体となるクラブチームを編成し、ふるさと選手を最大限活用しないといけない。組織としてはU12、U15、U18、社会人と各カテゴリーに技術委員の副委員長を置き、スピーディーに情報共有するよう変更した。各カテゴリーでは目覚ましい成績を上げている。U12は全国上位を占め、中学校は広島県初の全国2位、高校U18は中国選手権男女とも優勝･IHベスト8、大学も広島大学が全日本大学選手権に出場し、B2にはドラゴンフライズと、力とエネルギーはある。これを協会として委員会とタッグを組んで一丸となって、鹿児島国体に向けてスタートしていく所存である。必ず巻き返したい。

第44回 広島県民体育大会開催

令和元年9月15日から11月17日の間、県内各地において11競技を開催した。天候等での中止もなく一般の部・スポーツ少年団の部、計5,509人が参加し熱戦を展開した。

各競技の1位は次のとおり。

競技	【部】	種別		種目	第一位
陸上	スポーツ少年団の部	小学	男子	100m	森数　俊輔（にゃんじゃスポーツ）
				80mH	藤井　亮太（御野陸上）
				4×100mR	御野陸上クラブA
				走幅跳	ワヌナム晟有（竹尋AC）
			女子	100m	上田　優希（CHASKIジュニア）
				80mH	歌谷　　心（高須ジュニア）
				4×100mR	CHASKIジュニアA
				走幅跳	林　　舞陽（東広島TFC）
		中学	男子	200m	渡邉　海集（竹原市）
				4×100mR	安佐中学校
				走高跳	中山　尚耶（中野東）
				砲丸投	住田　英樹（庄原市）
			女子	200m	西田　真穂（CHASKIジュニア）
				4×100mR	CHASKIジュニア
				走高跳	岩本　心美（竹原市）
				砲丸投	鳴本　華歩（安佐中学校）
		高校	女子	4×100mR	福山ジュニア
	一般の部		男子	3000m	平田　　圭（庄原市）
				4×100mR	CHASKI
				砲丸投	中平　圭祐（竹原市）
			女子	4×100mR	東広島TFC
柔道	スポーツ少年団の部	男子	団体戦	小学生（3・4年）	有朋柔道塾
				小学生（5・6年）	川口
				中学生	中広
			個人戦	小学3年生	高原　悠凜（有朋）
				小学4年生	桶谷陽南斗（有朋）
				小学5年生	米澤　直良（有朋）
				小学6年生	栗栖　孝明（川口）
				中学1年生	中祖　俊輔（崇徳学園）
				中学2年生	阿河　大和（高陽落合）
				中学3年生	髙橋　勇人（崇徳学園）
		女子	団体戦	小学生（4～6年）	西条柔心館
				中学生	中広
			個人戦	小学3年生	鑄鍋　まき（八次）
				小学4年生	富永　虹美（八本松）
				小学5年生	大田　由奈（熊野）
				小学6年生	堀田　桃花（五月が丘）
				中学1年生	小櫃ののか（高陽落合）
				中学2年生	本田　万智（中広）
				中学3年生	落合　　倖（川口）
	一般の部				広島刑務所（中区）
剣道	スポーツ少年団の部			小学3・4年生男子	辻　　康佑（尾道かもめ会）
				小学3・4年生女子	兵頭　　藍（広島市南錬成会）
				小学5・6年生男子	相原　左京（中野東正武会）
				小学5・6年生女子	中村　桃寧（毘沙門台剣道教室）
				中学生男子	仲本　悠希（己斐剣道）
				中学生女子	松岡　涼菜（福山南剣友会）
	一般の部			男子	広島市西区
				女子	広島市安佐南区
ソフトボール	スポーツ少年団の部			A	矢野ソフトボール
				B	横路若虎
				C	明立クラブ
				D	呉荘山田龍王クラブ
				E	寺西
				F	向洋新町ソフトボール

競技	【部】	種別		種目	第一位
ソフトボール	一般の部	竹原会場		A	戸坂体協（東区）
				B	三入東体協（安佐北区）
				C	曙体協（福山市）
		府中会場		D	安芸区月ケ丘（安芸区）
				E	グッドフェローズ（熊野町）
				F	皆実体協ソフトボール部（南区）
バスケットボール	一般の部			男子	JFEスチール福山（福山市）
				女子	GALAXY（福山市）
バレーボール	一般の部			男子	緑丘男子バレーボールチーム（福山市）
				女子	坪生ウイングス（福山市）
ソフトテニス	スポーツ少年団の部		小学生	男子	小保伶太・杉原羚夢（三原ジュニア）
				女子	竹田実希・児玉沙夜（焼山ジュニア）
			中学生	男子	尾原航・大神晃世（音戸）
				女子	児玉芽依・亀井夢姫（焼山ジュニア）
	一般の部				福山市
バドミントン	スポーツ少年団の部		男子	団体戦	美鈴が丘JBC
			女子	団体戦	飛翔BSC-A
	一般の部				広島市佐伯区
卓球	スポーツ少年団の部		男子	小学1，2年生	前川　芽斗（インフTTS）
				小学3，4年生	山地　錦治郎（東広島スカイジュニア）
				小学5，6年生	山本　悠人（インフTTS）
				中学1年生	飯村　将史（ヒロタクスポーツ）
				中学2年生	岡村　勇哉（ヨシダTTS）
			女子	小学1，2年生	山本　祐萊（インフTTS）
				小学3，4年生	米田　優空（呉夢TTC）
				小学5，6年生	上田　楽々（東広島スカイジュニア）
				中学1年生	甲田　奈々（ヒロタクスポーツ）
				中学2年生	金川　伊織（庄原卓球）
	一般の部				福山市A
空手道	スポーツ少年団の部	組手	個人戦	小学生1・2年生男女	山本　涼雅（瀬野）
				小学生3・4年生男子	福原　要汰（拳志館八本松）
				小学生5・6年生男子	肉戸　海彪（東浄）
				中学生男子	寺西　優太（拳志館下黒瀬）
				高校生男子	森山　椋太（拳志館昭和）
				小学生3・4年生女子	村岡　恵名（甲田）
				小学生5・6年生女子	谷　友里愛（天応）
				中学生女子	新井　　椿（和道流）
				高校生女子	近藤　　李（世羅）
			団体戦		世羅（世羅町）
		形	個人戦	小学生9級以下	坂本　瑞季（拳志館昭和）
				小学生7・8級	三原　康椰（五日市）
				小学生5・6級	三瓶　花林（東浄）
				小学生3・4級	竹内　智佳（海田町）
				小学生2級以上	栗原　怜之（拳志キッズ）
				中学生男子	谷　　柊瑳（天応）
				中学生女子	國廣萌々花（海田町）
				高校生男子	大畠慎三郎（拳志館安芸）
				高校生女子	西岡奈乃子（拳志館広）
			団体戦		東浄（広島市）
ゴルフ	一般の部			男子	広島市
				女子	呉市

総合型地域スポーツクラブ交流会開催

12月9日、第44回広島県民体育大会総合型地域スポーツクラブ交流会を豊平総合運動公園体育館で行い、柔道エクササイズやボッチャで交流を深めた。

スーパージュニア選手育成プログラム2019　第4回体験プログラム！

11月16日（土）、中区スポーツセンターにおいて第4回目の体験プログラムを行いました。今回は、午前はテニス、午後はバレーボールの体験です。まずはテニスからスタートです。

講師として、広島県テニス協会から3名の方にお越しいただきました。

準備運動が終わったらキャッチボールでボールの動きに慣れていきます。空き缶を持ってボールをキャッチする練習では、ボールの軌道をきちんと予測して動かないと、細い空き缶の中にボールは入ってくれません。最初はポロポロとボールをこぼしていた選手たちでしたが、すぐに缶でキャッチができるようになりました。さすがですね。

次に、ラケットを持ってボールを扱う練習に入ります。

2人1組になって、つないだ手をネットに見立ててラリーに挑戦です。打つ力が強すぎても弱すぎてもラリーは続きません。近い距離でボールをコントロールするのに苦戦している様子でした。

ボールの扱いに慣れたら、いよいよコートに入って本当のネットをはさんだラリーです。今回、コートはバドミントンコートを利用しました。

ラリーは、相手の取りやすいところに打ってあげることが大事です。今までの練習の成果が発揮できたのでしょうか、スムーズにラリーが続くペアが多かったですね。最後に勝ったら上のコート、負けたら下のコートに行く勝ち上がり戦をして、体験は終了しました。

今回の体験は室内でしたが、選手の中には硬式ボールを打ってみたい、広いコートでやってみたい、と思う選手もいたのではないでしょうか。体験をきっかけに、新しいスポーツに挑戦してくれたら嬉しいです。

午後は、JTサンダーズ広島OBの方々にバレーボールを教えていただきました。

最初の30分はストレッチやランニングを行いました。怪我をしないためにも入念な準備が大切です。そしてキャッチボールをした後、2人1組になってパス・トスの練習です。講師の方が周って丁寧に教えてくださるので、正しいフォームを身に付けることができました。

次は、一人ずつ順番にスパイクの練習です。ジャンプのタイミングや手の振りなど、最初からお手本のようにはできません。何度も練習することが大事ですね。男子の練習コートでは、途中から自主的にブロック・レシーブをし始める選手たち。講師の方も一緒になって、試合さながらの雰囲気で楽しんで練習をすることができました。

休憩時間になっても講師の方に「スパイクを打ってください!」と、レシーブを体験したい選手達が列を作ります。高いところから打たれるスパイクに怖がりながらも、打ち返そうと必死にボールを追っていました。

最後はお待ちかねの試合です。男女・学年で別れてチームを組んで対戦しました。

コートには全員が入り、ワンバウンドしても続けて良い特別ルールです。試合が始まると、声を掛け合って一生懸命ボールを追いかける子供たちの笑顔が見られ、点が入るとチームでハイタッチをするなど盛り上がっていました。

今回の保護者を対象に行ったサポートプログラムは、スポーツ医・科学委員会副委員長で広島女学院大学教授の下岡里英先生による「小学生期におけるスポーツと食事について」の講話でした。

スポーツのための正しい食生活を身につけることの重要性等についてお話しいただきました。また、現在の食物摂取状況などのアンケート調査を行い、その分析による解析や指導助言・相談などが次回のプログラムで個別に実施されます。

スポーツ栄養の考え方による正しい食生活を身につけるためには各家庭の役割が非常に大きいところです。ジュニア選手の育成のために、サポートをよろしくお願いします。

今回も広島県小学生体育連盟の先生方、広島文教大学の学生の皆さんにご支援・ご協力いただきました。ありがとうございました。

スーパージュニア選手育成プログラム2019　第5回体験プログラム！

12月14日（土）の第5回体験プログラムは、午前はボウリング、午後からはスピードスケートを実施しました。

午前中のボウリングは、広島県ボウリング連盟のご協力のもと、広島市中区にある広電ボウルで開催しました。

最初にボウリングの基本的なルールを教えていただきます。日ごろ家族や友達とゲームを楽しむ時とは違って、今回はスポーツとしてのボウリングを体験するため、ルールもしっかり意識しなくてはいけません。

続いて、国体で活躍する講師の方々の模範投球を見せていただいた後、投球フォームの練習です。はじめはボールを持たずに正しいフォームを身に付けます。フォームがさまになってきたところで、いよいよ自分に合ったボールを持って、練習投球開始です。

実際にレーンにボールを投げてみると、さっきまでできていたフォームが崩れてしまう選手たち。ボールを変えたり、講師の方に沢山質問をしたりしながら修正をしていきます。

練習投球が終わると、ゲーム形式で2ゲームのスコアをとりました。

力のあるボールでストライク・スペアを取る選手もいれば、狙ったとおりにいかず悔し涙を流す選手も。お互いに良かった時はハイタッチで喜びあう姿も印象的でした。個人競技のイメージが強いボウリングですが、国体など様々な大会で団体戦があるので、こうしてチームを盛り上げる雰囲気は大切です。

今回、ボウリングをしたことがある選手は沢山いましたが、スポーツとしてボウリングの体験は新鮮だったのではないでしょうか。時間の関係上、一投目の投球しか教わることができませんでしたが、奥の深いボウリングに興味を持って、スポーツとして競技として続けていく選手が出ると嬉しいです。

午後からは、会場を広島市東区のひろしんビッグウェーブに移動して、広島県スケート連盟のご協力のもとに、スピードスケート（ショートトラック）の体験プログラムを開催しました。

スケートリンクに入る前に、スケート競技（スピード、フィギュア、アイスホッケー）の説明を聞いた後、スケート靴、肘・膝のサポーター、ヘルメットを借りて、リンクサイドに集合です。

最初に、広島スピードスケートクラブのジュニア選手たちに模範滑走をしていただきました。模範滑走には、今年のユニバーシアード冬季競技大会のショートトラック競技3000mリレーで第2位に輝いた谷本光さんにも、日本代表のユニフォームで参加していただきました。

スーパージュニア選手達は、自分とあまり年齢が変わらない選手や、日本代表の谷本さんのスピード感のある滑走を間近で見て、圧倒されている様子でした。

いよいよ、スーパージュニア選手たちもリンクへ入ります。

最初は氷上での歩行練習で、壁から手を離してゆっくり歩きながら氷上に慣れていきます。

スケート初体験の参加者も多くみられましたので、初心者組と少し滑れる組に分かれることになりました。

少し滑れる組は、学年・男女別の4グループに分かれて滑走の練習です。

ゆっくり両足で前に進めるようになったら、片足での滑走、体重移動、止まり方などを教えていただきました。カラーコーンを置いて小さな周回コースを滑走する練習では、最初に比べて転ぶ回数がぐんと減り、上達を感じることができました。

初心者組は、まずは氷の上を歩くこと、そして、慣れたら少し走ってみます。ちょっとずつ片足に体重を乗せてみますが、また転ぶことも。ゆっくりと、でも少しずつ氷に慣れて、できることを増やすことができたと思います。

最後は、男女別学年別に、4人から5人一組で一周のタイムの測定です。スタートをしたら、下ではなく前を向いて滑れ、とアドバイス。

ゴールが近くなると気持ちが焦って「滑る」より「走る」になってしまうのは、毎年恒例の風景です。体験が始まったばかりの時、恐る恐る氷に立っていた姿からは想像できません。

測定したタイムで男女別学年別のそれぞれ上位5人による決勝レースを行うと、さらにタイムを縮める選手も見られました。上位の5名には広島県スケート連盟から表彰状が授与されました。

この体験がきっかけで、ご家族や友達とスケート場に行く回数が増えることを期待しています。

今回の保護者を対象としたサポートプログラムは、前回実施した食事調査の回答を踏まえた個別懇談でした。担当する4名の先生から、各選手の回答を踏まえた具体的なアドバイスが行われました。ジュニア選手育成の家庭でのサポートに参考となることを期待します。

今回も広島県小学生体育連盟の役員ならびに広島文教大学の学生の皆さんにご支援・ご協力をいただきました。ありがとうございました。

～～ひろしまのスポーツ取材日記～～

中国放送

ウェイクボードとは簡単に言うと、サーフボードに似たボードを船に引っ張らせながら、船が作った波で飛んだり跳ねたりする競技。バランスが取りづらい波立つ水面から高いジャンプを繰り出し、身体全体を使って派手に着水する姿はまるでスタントマン…そんな競技のプロが広島にいるらしいと聞き取材に行くと、なんと中学生だった。よくある「ごく普通の中学生がコートに立つと…」みたいな話を予想していたけど、彼は正直言って全然普通じゃなかった。学校から帰るとまず向かうのは、テレビの前でも冷蔵庫でもお風呂でもなく、トランポリン。ガシャンガシャンと宙返りするのは海上でのジャンプを想定してのことだ。リビングのドアノブにはウェイクボードで実際に使われるハンドルがついていて、時間が空けばそれを握ってイメージトレーニングをしている。そして一番びっくりしたのだが、初めて船に乗ったのが生後1か月だと言う。本人はウェイクボードが生活の一部になっていると話していたけど本当にその通りで、学校で勉強している以外は常にウェイクボードが頭の中にある状態だった。この人の人生は生まれたときからウェイクボードと共にありこれからもそれが続くんだなぁと考えると、自分とは全くちがう生き方に不思議な感覚がした。同時に、一生をかけて何かに打ち込む人を間近で見られるというところにスポーツ記者の面白みを感じた。今年の春からは日本での大会、そして世界大会にも出られる可能性があるという彼。これからも応援しながら取材を続けたい。　　中国放送　報道制作局　スポーツ部　森井　節

テレビ新広島

“カープロス”。Bクラスと満足するシーズンを送れなかったカープ。しかしシーズンが終了し、野球中継等の放送が無いことから冒頭のようなセリフがとびかっています。私たちはそんな“カープロス”の皆さんが喜ぶだけではなく、もっとカープファンが増えるような番組作りを目指しています。

今回TSSのスポラバ新春特番では関西出身選手とユニバーサル・スタジオ・ジャパンでロケを敢行しました。はじめは優勝していないのにバラエティはどうだろう…と迷いましたが、カープを応援する一人として、やはりシーズンを懸命に戦い抜いた選手たちの“オフ”の姿を見たい!と思い制作。すると、視聴者の方から『選手の新しい一面が見えた!』と感想をいただけたことで、制作してよかったと思えました。スポラバ特番では全力でオフを楽しむ選手の姿をお届けしましたが、選手の“本当のオフ”はとてつもなく短いです。収録やイベントの合間に時間を見つけては練習をしています。

2019年が苦しいシーズンだったからこそ、そんな努力を惜しんでいない選手たちには今まで以上の声援を送ってほしいと思うし、応援してもらうきっかけを作るような取材をしていきたいと思います。

株式会社テレビ新広島　報道制作局　スポーツ部　堀之内　祐香

NHK

2020年1月1日　国立競技場に行ってきました

ついに2020年がやって来ました。7月24日からオリンピック、8月25日からパラリンピックが東京を中心に日本各地で行われます。広島でも、メキシコ選手団が事前合宿を行うので、国際交流で貴重な体験を得るチャンスがあります。一人でも多くの方に積極的に参加してもらいたいと思います。

さて、1月1日、オリンピック、パラリンピックのメインスタジアム国立競技場へ行ってきました。サッカーの天皇杯決勝「ヴィッセル神戸×鹿島アントラーズ」の中継スタッフとして働いてきました。放送開始前に、ここぞとばかりに、スタジアム内を歩きまわり見学。観客席は、上に行くほど傾斜があって、とても観戦しやすい印象でした。また、最大の長所は、屋根がせり出しているので、歓声が反響して、スタジアムの雰囲気がかなり盛り上がります。選手とファンが一体となって、名勝負が生み出されるのではないかと期待が高まります。短所は、通路と座席が狭いこと。フードコートやイベントスペースなどもなく、カスタマーサービスという点ではかなり残念。マツダスタジアムに親しむ広島の人からすると、新しい国立競技場は、「すごいけど、物足りない」感じでした。

それだけ、マツダスタジアムが良い環境ということに改めて気がつきます。広島には2024年に新しいサッカースタジアムが出来ますが、ファン第一の楽しい空間を期待したいと思います。　　NHK広島放送局　チーフプロデューサー　浅田　昌之

中国新聞社

広島のバスケットボール界にとって、歴史的な1日と言えるだろう。2019年12月29日、Bリーグ2部ドラゴンフライズの特別指定選手となった皆実高3年の三谷桂司朗選手が、福島戦でコートに立った。現役高校生がドラゴンフライズの一員としてプレーするのは初めてのことだった。

出番が巡ってきたのは、勝利がほぼ決まった第4クオーター残り1分59秒。大歓声の後押しを受けてコートに向かうと、プロを相手に物おじすることなく果敢にシュートを打った。5本外して迎えた残り5秒、ついに初得点を決めた。「歓声が聞こえた瞬間にBリーグの試合に出た実感が湧いて、すごくわくわくした」。そう振り返る表情は初々しく、喜びに満ちていた。

三谷選手はホームアリーナである広島サンプラザのお膝元、広島市西区の出身。井口中時代にはドラゴンフライズのバスケット教室に参加し、朝山正悟主将らから教えを受けた。「単純に格好良かった」。間近で見るプロの姿に憧れ、いつかドラゴンフライズのユニホームを着てプレーしたいという思いが芽生えたという。

Bリーグが誕生して4季目。子どもたちがプロチームを身近に感じ、憧れ、そしてプロを目指して成長する。三谷選手のデビューは、広島のバスケット界にそんな好循環が生まれたことを実感させる。すでに大学進学が決まっているが、また帰ってきてくれることを期待したい。そして彼に続く選手がどれだけ出てくるのか、今から楽しみである。

中国新聞社　運動部　日野　淳太朗

広島テレビ

昨年9月に現役を引退し、カープの駐米スカウト就任が発表されたブラッド・エルドレッドさん。新たな一歩を踏み出す彼は今どうしているのか。アメリカへ取材に行ってきました。引退後、一番の変化は家族と過ごす時間が増えたことだと言います。遠征の多いプロ野球選手。現役時代は2ヶ月以上、続けて家にいることはなかったそうです。子ども達の成長を近くで見守れることが幸せだと嬉しそうに話してくれました。豪快なイメージのエルドレッドさんですが、現役時代は毎日プレッシャーとの戦いだったと言います。試合以外の時間も頭の中は野球のことで一杯。

就寝中も次の試合が気になって目が覚めることも多々あったそうです。

日々、重圧と戦い続けるプロ野球選手の過酷さを垣間見た気がしました。

日本で一番印象に残っている出来事を聞きました。それは2013年にカープが初めてCS進出を決めた試合です。この試合で決勝HRを放った彼は、スタンドのファンが「ありがとう」と言って泣いている姿を見て考え方が変わったと言います。

“全てはファンのため”その想いが長年活躍を続けられた原動力となりました。

選手からスカウトへ役割は変わりますが、これからもカープファンを喜ばせる為にチームを勝利へ導く選手をたくさん発掘してもらいたいです。

広島テレビ　スポーツ部　日髙　健人

広島ホームテレビ

ママさんたちの奮闘記

広島ホームテレビでは、毎年冬に「広島ホームテレビ食協カップ広島ママさんバレーボール大会」を主催しています。この大会は実に47回を数え、ママさんバレーボールの大会としては、県内のママさんが「出場したい」と願う、歴史ある大会に成長しました。

私は、今回初めて番組プロデューサーとして担当したのですが、「ママさん達」を、すこし甘く見ていました。コートで繰り広げられる激戦に圧倒されたのです。この大会は9人制。スパイクも山なりではなく、鋭角にコートに突き刺さる、強いもの。それを拾い、ラリーに持ち込むしぶとさ。若手のママさんから70歳を超えるレジェンドまで。県内170チームが参加し、決勝に進んだ40チームのママさんの気迫を感じました。高校球児張りの情熱を私たちに見せつけてくれました。学区ごとに分かれた「地域の部」では、尾長体協が優勝。「クラブの部」では牛田クラブが優勝。2019年の頂点は決まりました。2020年は東京オリンピックイヤー。スポーツが盛り上がる年です。ママさんたちも次の大会の優勝に向け、切磋琢磨する日々が続きます。

広島ホームテレビ　徳永　信三

おめでとう!!
NTTソフトテニス部 ― 日本リーグ10連覇!! ―

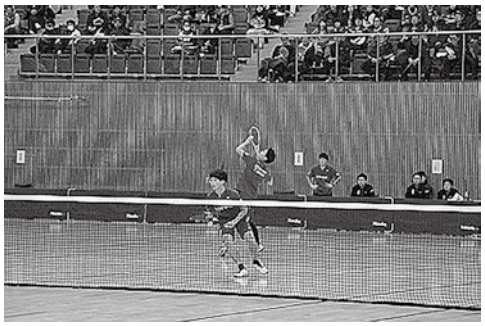
【日本リーグ10連覇を達成して】

まず、はじめに、この偉業を達成出来たのも、広島県民の皆さま、市民の皆さま、そして様々な練習施設のスタッフの皆さんにサポートして頂いた結果であると感謝しております。また、会社の方々がいつも背中を押して応援していただけることが、大きな原動力となりました。

2019年は厳しい戦いの連続でした。そんな中、国民体育大会で2年ぶりの優勝、チームも上昇気流に乗るかと思いきや、国体後の全日本選手権では大惨敗。また、エース格の丸中が捻挫、長江が膝を痛めるなど不安の中、日本リーグ強化練習がスタートしました。スタートしてからも、長江のケガが癒えず、新人の林湧太郎もケガで離脱するなど、これまでで一番チームが万全ではない状態でした。

大会が近づくにつれ、ケガの長江の出場が微妙となり、チームの危機感がピークに達したと思います。そんな中、キャプテンを中心に選手間でミーティングを実施、個々が思いの丈を正直に伝えることで、もどかしかった部分が解消されたのでしょう、練習での集中力・激しさ・厳しさが強い時のチームの状態に戻ってきたのを覚えています。練習内の簡単なミスをお互いが許さず、気づいた点は声をかけあったり、共有したり、時にはスタッフにも意見をする自立した個々の強さを感じた時に、「苦しむかもしれないが、必ず優勝出来る!」という、根拠のない自信が監督の私自身に芽生えました。

日本リーグがスタートし、3日間とも優勝候補と当たる試合順でしたので、「リーグ戦と考えない。毎日が準決勝・決勝のつもりで、負けたら終わりのトーナメント戦のつもりで戦おう。個人成績は今年は相手が上。我々は王者である反面、最強のチャレンジャーだ!」と選手を鼓舞しました。



初日の日本代表を擁する福井県庁に高い集中力で快勝したことで、チームに勢いが生まれました。特に新人の林湧太郎が先陣を切ってチームを盛り上げ、2年目の広岡も練習通りのパフォーマンスを発揮してくれました。連覇のプレッシャーを知らない2人が練習通りやってくれたらチームの大きな力になると思っていたので、優勝に向けて良い流れで前半戦を終えることが出来ました。

後半戦は中堅・ベテランも集中力がより高まり、チームの結束が試合毎に強まりました。試合に出ない選手も毎試合練習し、汗をかいて十分なコンディション作りをしてくれて、こういった目に見えない部分も勝ち続けるには必要不可欠だと感じています。

そして最終日、チーム最年長の長江がトレーナーの尽力で復活し、最終ピースが揃い、チームとして最高潮の雰囲気で最終戦を迎えました。

勝ったほうが優勝のヨネックス戦。これまで何度もチームを勢い付けた丸中・林(湧)が相手エースに惜敗するものの、ベンチは全く動じることなく、2番の船水が4−0で勝利。3番目の勝負に持ち込みます。連覇を知らない勢いある若手の広岡と、チームの良い時も悪い時も知る長江のペアは、ミスが続き相手ペースで試合が進むも決して下を向かずに戦います。相手にマッチポイントを8本献上し、誰もが諦めかけた時も、決してうつむかず、粘り強く戦い、耐えて耐えてチャンスを伺います。練習で培った「自立した個々の強さ」が、苦しい場面になればなるほど発揮されるのだということを体現してくれました。辛抱強く追いかけ、タイに追いつくと、ラストスパートは2人の独擅場。長江のボレー、広岡のスマッシュが冴え、大逆転勝利で10連覇を達成。苦しかったシーズンを払拭するかのように、全員が涙する日本リーグ制覇となりました。

多くの方々が、奇跡と言いましたし、私もそう思いましたが、今振り返ると、苦しい時にこそ、人のせいにせず、自分自身に課題を見つけ、日々自分に厳しく練習、生活をした選手たちの努力の結晶だったのだと思います。この勝利をただのチームの歴史の良き1ページではなく、チームの良き伝統として刻み、まだこれからも続いていく連覇への指針として後進に繋げていきたいと思います。

NTTソフトテニス部　　監督　堀　晃大